

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100640		
法人名	ウエルケア沖縄		
事業所名	グループホームめぐみ小禄南 3階		
所在地	沖縄県那覇市高良2丁目9-6		
自己評価作成日	令和4年 2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=4790100640-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンして日が浅く、若い職員が多いため元気いっぱい。人生経験も浅いため、入居者様、家族様に教えていただくことが多いですが、入居者様と精一杯毎日をすごしています。これから地域の方々と手を取り合って地域の顔となる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の一角に事業所は位置しており、訪問看護ステーションと看護小規模多機能施設が併設されている。「いちやりばちよーでー」の精神が息づいたこの地で、一人一人の人生に寄り添いながら共に笑い、共に喜び、共に生きていく第2の家族のような存在になれるように日々支援に努めている。法人母体が広島にあり、法人の定めた「サービス基準」及び「業務基準」をチームで共有し、お互いに協力することで、どの事業所においても一定水準以上の介護サービスが提供できるように理解度を確認する「SQ(スタンダードクオリティ)試験」が実施されている。沖縄の就業状況に合わない部分については法人に伝えて、現場で働く職員の意向に合わせて変更し、働きやすい職場づくりを行っている。地元へ根差した事業所として地域に受け入れてもらえるように、地域の人たちへの挨拶や近所のお店を利用して馴染みの関係性創りを心がけている。24時間365日、医師、看護師との連携体制が整っており、介護も併せてトータルでサポートができるサービスの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアや、勤怠届ファイルに目につくようにしている。また、年に一度、会社が行うSQ試験にも取り入れられているため、常に意識できるようにしている。	法人理念は、入社時に全員研修を受ける。職員がいつでも理念を見ることができる勤怠届のファイルと職員が移動で使用する階段の扉に掲示している。介護サービスの標準化を図り、標準品質の理解と共有を目指すために法人独自のSQ(スタンダードクオリティー)試験が毎年実施され、法人理念や方針等を理解し、日々の業務を取り組む姿勢などの評価となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でのオープンではあるが、ケアマネが中心となり、包括支援センターと連携して交流をすすめている。 また、散歩などで、近所の方と挨拶するなど、できることから行うようにしている。	コロナ禍にあって地域との交流、関わりは難しくなっているが、施設近隣清掃を定期的に行い、地域の人たちとあいさつを交わしている。意識して地域の商店を利用して、顔なじみの関係性を創り、事業所を知ってもらう機会の取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍まだ、地域の人を招いての地域貢献は、難しいが、できれば、地域の子供たちを招いての認知症について学びの場を作っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、おこなっている。コロナ禍で、関係者がそろって行う事が難しいが、これから様々なツールを使って行っていきたい。	運営推進会議は年に6回実施している。コロナ禍のため書面開催の実施となることもあった。議事録は玄関先にファイルし、いつでも閲覧できるようになっている。家族や地域代表の毎回の参加がない。	運営推進会議の構成員として家族や地域代表の毎回の参加に向けた取り組みと構成員が事業運営を見守り、協力者として理解を得るうえで、事業所の実情を伝える情報提供の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあれば、随時連絡し、連携を図るようにしている。これからも、その都度連携を図っていきたい	市担当職員は、運営推進会議の構成員にもなっており、資料作成の助言等もあり、日頃から報告、連絡、相談を取り合いながら協力関係の構築に努めており、事業所は市との連携に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	EVや非常階段扉など、安全面の観点から施錠しているが、閉じ込められていると感じさせないように声掛けし、入居者の行動の制限にならない様になっている。また、転倒の危険がある方には、センサーマットを使用するなど、抑制しない介護を実践している。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、利用者と家族には契約時に説明している。身体拘束適正化委員会は、2ヶ月に1回開催され、議事録も確認できた。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度など、職員同士で注意しあえる環境作りに取り組んでいる。また、法人が行う研修会への参加もこれから、積極的に参加を促して職員が学べるようにしていきたい。	高齢者虐待防止マニュアルが整備されており、年間研修も計画されている。利用者への言葉遣いが気になる職員については、その都度声をかけて話を聞き指導をしている。職員間でアンガーマネジメントに関する情報を共有し、疲れた様子が見られる職員には管理者から声かけするなどして、職員とのコミュニケーションを大切にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修会がおこなわれておらず、他の研修会にも参加できていないため、十分に理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者とケアマネが契約書を説明し、入居者や家族の疑問にしっかり応えられるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、常に声をかけ要望を引き出す努力をしており、家族には、ケアマネや管理者が密に連絡を取り合い要望などを聞くようにしている。	出入り口の玄関脇に意見アンケート用紙。ボックスを設置している。意思の表出が困難な利用者には、複数の選択肢から選んでもらい、少しでも利用者の希望に応えられるように取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度は、管理者と個人面談を行うことになっている。また、それ以外でも、いつでも話をできるように努めている。	日頃からコミュニケーションを図り、家電の配置や死角となる場所に鏡を設置したり、職員の意見を日々の業務に取り入れている。勤務時間についても、職員からの要望で、地域の実情に合わせて変更している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の家庭環境にも目を配り、できる限り希望に添える勤務表を作成している。また、法人内研修にも参加しやすいようにしていきたい。	法人化作成した就業規則が整備され、給与や休暇等の労働条件が規定されている。各種資格取得に向けた支援や法人での研修計画なども準備されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が、広島で行われることが多いため、沖縄エリアでも行えるように、体制づくりをしている途中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で困難ではあるが、まず管理者からオンラインではあるが、研修会に参加するようにしている。これからもっと、集合研修に参加していきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との信頼関係を築けるようコミュニケーションをとり、不安が少しでも薄れていくように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、ケアマネや管理者が、家族としっかりとコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるように努め、その中で少しずつでも不安を取り除けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍で、施設の見学も難しいが、動画などで、施設内がわかるようにしたいと考えている。どのようなサービスがよいか、ケアマネを中心に一緒に考えて、信頼関係を築けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできること、得意なことを職員は理解して、無理のないようにごはん準備や洗濯物たたみなどを一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で毎回ではないが、家族と一緒に誕生日をお祝いできるように働きかけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お電話やお手紙などいただけるように声掛けをしている。また、面会ができるときは、積極的に声掛けし、支援している。	コロナ感染対策に伴い、外部の人との接触を避けるために事業所内への出入り面会は自粛しているが、事前に予約を取ってもらい、玄関先での面会を再開している。移動美容室に2か月に1回継続的に来てもらうことで、新たな馴染みの関係性創りに取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別対応がどうしても増える環境下ではあるが、なるべく同じソファーにすわり、関係が途切れないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から家族との関係を大切にしているので、サービスが終了しても連絡をとれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者とコミュニケーションをとり、自分の思いが伝えにくい入居者にも気を配るようにしている。	日々の関わりの中で、利用者の希望や思いを把握するように心がけ、職員間での情報共有もしている。利用者が信仰する宗教に関する情報が得られるようにと、職員が聖教新聞を定期的に持ってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他業者から引き継ぐ際もこれまでのサービス利用の経過を把握し、入居者の理解を深めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務開始する際は、直接、他職員から情報収集し、記録を確認してから、業務にはいるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月の最終週にリーダーが中心となり意見を集約できるようにしている。気になる点があるときには、管理者やケアマネも参加してより現状を共有しサービスにつながるようにしている。	計画は、利用者と家族の意向を聞き作成している。計画の見直しの時は、利用者と家族、担当職員からの情報も聞いて、作成している。モニタリングは毎月担当職員で行い、6か月目に総評している。職員間での介護計画の情報共有は、ミニミニ会議の中で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方について、もうすぐ法人として変更があるため、そこを機に勉強会を実地していく予定		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で家族も買い物のままならず、買い物の代行や、病院受診の際の付き添いなど家族に提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	R2.12月にクリスマス会にてボランティアで演舞を披露してもらったが、それ以降、なかなか難しい環境下なため、落ち着いたら、また、訪問ボランティアなど声かけていきたい		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、訪問診療のほか、月2回の訪問看護師による健康チェックをうけており、常にしっかりと連携できている。	利用者全員が事業所協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療、訪問看護、訪問薬剤師など医療連携が図られている。緊急時においても適切に対応する仕組みを整えており、職員、家族の安心に繋がっている。整形外科などの他科受診は家族が対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の変化や気づきを随時、ラインワークスや電話にて報告、指示を仰いでいる。また、報告の仕方や処置等、疑問がある際は、その都度ミニ勉強会を開いて共通認識になるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった場合には、ケアマネが中心となり 地域連携室と連絡を密にとっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にもご家族と終末ケアについて話し、また、いざその時が近づいてきたら、再度、家族や、関係機関との連携を図りながら、チームで取り組んでいる。	重度化に対応する指針を基に、入居時に重度化や終末期における事業所の方針などを詳しく説明し、本人や家族に終末期における事前確認書を以って同意を得ている。状態変化時には、再度、家族や、関係機関との連携を図りながら、チームで終末期に向けて家族の意向に沿った対応を実践している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡について確立しており、機能している。具体的な応急処置については、その都度訪問看護師の指示を仰いでいる。	事故対応マニュアルや新型コロナウイルス、感染症対策マニュアルが整備され、緊急時の連絡体制フローチャートも確立し機能している。事故発生時には、24時間オンコールの訪問看護師の指示を仰いでいる。職員は万一の場合に備えて応急手当、初期対応などは習得しているが、今後さらに看護師との勉強会を検討している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	火災報知器の使い方や災害時の避難誘導等、同一建物にある事業所とともに、これから行っていく予定。また、感染対策について、同一建物にある事業所とともに密に連携と情報共有し、対策を行っていく。	防火管理者を中心に昨年の12月と今年の3月に夜間想定地震と火災の避難訓練を行っている。火元の想定を2階、3階と変え、少人数ではあるが1階～3階までの職員が参加して行われているが、利用者、地域住民の参加がなく、今後の課題となっている。職員は全員、万一に備え消火器の使用を体験し、備蓄品も本部より消費期限が5年程の食品が届けられ、整備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切に考えています。お名前呼び方等、入居者の希望をきいて、他人行儀になりすぎないように、なれ合いにならないように気を配っている。	運営規程・重要事項説明書に規定されるように人格の尊重とプライバシーの保護に努め、利用者の経歴などにも配慮し、言葉かけに注意している。利用者から親しく愛称で呼ばれる事もあるがなれ合いにならないよう心掛けている。管理者は日頃から職員の対応などに気を配り、気になる職員には直接注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とコミュニケーションがしっかりとれているため、なんでも希望を伝えてくださる。また、自分で伝えられない入居者に関しては、いくつかの選択肢を準備して、自分で決めることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、体操など何回も行い、入居者が一度は参加できるようにしている。また、入浴に関しても、本人の意向に基づいて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日三度の口腔ケアの際、鏡にむかうため身なりを整えるようにブラシを手渡し、支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託食材をしようしている。その中でも1品は、手作りするようにして、一緒にもやしのひげとりなど行うようにしている。また、片付けも一緒におこなうこともある。	主食と汁物を除き3食、献立の決まった外部委託食材の配達を利用しているが、夕食は1品副食も手作りを加えるように心掛けている。ネットスーパーも利用して、職員がアレンジして調理するなど変化をつけ、行事食はオードブルやピザの宅配などを利用するなど食の楽しみを演出している。おやつは地域の商店からサーターアンダギーを購入するなど、交流の機会を作っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分摂取量を記録しています。また、個人の栄養状態はしっかりと把握し、栄養ゼリーなど工夫するようにしている。また、家族にも情報をきいて、本人の希望に合うように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに努めている。また、歯科衛生士からも月に2回、チェックしてもらい助言をもらっている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に水分摂取量の横に排泄表を記録しているため、排泄の時間ではなく、個々の時間にあわせた対応に努めている。	個別の「生活状況記録」を基に水分の摂取量や排泄状況を記録している為、利用者それぞれへの声掛けや誘導のタイミングを図り、排泄支援を行っている。夜間は睡眠を重視するため、大きめのパット交換で対応しているが、一人でトイレに行かれる方の転倒防止と安全確保の為、センサーマットも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時のおやつ時には、豆乳やオリゴ糖、時には野菜ジュースなどで、おなかの調子を整えるように工夫している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとり、声掛けから整容まで同じ職員が対応することで安心感を与えるように努めている。また、本人の希望にそって支援できるようにしている。	基本的に週2~3回のシャワー浴で浴槽を希望される方がいれば2階のユニットの浴室を利用できる。ほとんどの方が入浴拒否は無く、拒否があっても無理強ひせず本人の意思を尊重した支援を行っている。脱衣所の床の危険防止にカー用品のマットを代用した所、滑り止め効果が得られ、安全性が確保されている。職員の使用の利便性を考えて清掃用洗剤が放置されていた。	清掃用具や洗剤は危険を伴うため、利便性を重視する事無く、安全確保のため、脱衣所に工夫して収納スペースを設ける事を希望する。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が、休みたいときに休めるように支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんから、薬の副作用について聞いており、職員が情報共有できるようにファイルに管理し、その都度確認できるようにしている。	訪問薬剤師が2週間に1回来所し、2週間分の薬が届けられ、鍵のかかる棚に保管している。夜勤者が1日分を準備して担当の職員は与薬時、飲込みまで確認している。服薬マニュアルが整備され、職員間での申し送り時の情報共有も行われているため、誤薬は全く無い。訪問医師の協力もあり、食前の服薬を調整するなど職員の負担軽減に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が、孤立しないように話が合いそうな入居者がコミュニケーションとしやすいように、役割を与えたり、ゆんたくできる機会をつくるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がなかなか難しいが、家族に協力を依頼しながらできる限り支援している。	コロナ禍であっても車中ドライブなどを継続していたが、職員の感染による人員不足や「緊急事態宣言」などにより外出を自粛している。年末年始は、ご家族の協力の下、外泊や外出をされた利用者もおり制限された中でも出来る限り外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外に出ることが可能な時は、散歩がてら、近くのコンビニまで買い物に行けるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とラインをつかってビデオ通話したり、動画を送ったりし、電話などで、やりとりができるようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の際は、BGMをながしたり、民謡を流したりしている。また、掃除も頻繁に行い、入居者が不快にならないように努めている。	1階の玄関ホールに運営推進会議議事録などがファイルされ、いつでも閲覧できる状況が整えられている。意見箱の設置もあるが、ご家族からの利用は無く、意見や要望は管理者へ直接電話で話すことが出来る信頼関係を築いている。開設1年半ほどの新しい建物で、共用空間は常に清潔が保たれ感染対策のため、食事の後は消毒タイムを設け、徹底した清掃を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主にフロアにて過ごされることが多いため、四季折々の壁面飾り、写真、作品などに囲まれた場所になるように努めている。また、気の合った入居者同士が同じテーブルになるように努めている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使っていた馴染みある家具にかこまれて、落ち着いて過ごすことができる環境作りに取り組んでいる。	ベット、エアコン、カーテンは常設され、入居前に使い慣れた家具の持込をご家族や本人に依頼している。室内は明るく風通しも良く信仰する宗教の仏壇を持ち込まれている利用者や家族写真、芳香剤、加湿器などを整えている居室もあるが、室内の収納が少ないため、紙オムツが目につくところに無造作に置かれていた。	紙オムツの収納整理を工夫して、利用者のプライバシーや尊厳に配慮される事を希望する
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来る事を大切に、手すりを使用するなど声掛けしている。また、浴室ですべらないように工夫し、安心して過ごすことができるようにつとめている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	54 (24)	紙おむつの収納等、プライバシー保護に配慮できていない。	居室内を整理整頓し、個々のプライバシーに配慮された空間をつくる。	居室担当と家族が連携をとり、入居者がより快適に過ごせるよう家具の配置や必要に応じて物品の購入依頼等行う。	12か月
2	45 (20)	浴室の清掃用具や洗剤の保管方法に危険性があり、配慮が必要。	入居者や外来者に不安を感じさせない空間を作る。	整理整頓できるよう棚の設置など本部に働き掛ける。	6か月
3	4 (3)	運営推進会議に関して、地域住民や他事業所の参加が少ない。	少しずつ参加者は増えているが、地域住民や他事業所と相互に連携がとれる体制を作る。	自治体の催しへの参加や自施設での行事への参加を依頼し、活動内容に興味をもって頂き、会議に参加を依頼していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。